あると判断したからである，この間の事情を諒承されて，不備な点をお許し願いたい．

この稿をなすに当り，斎藤博英・朝倉正その他多くの知友からご教示を受け，旭川地方気象台職員諸君と筆者の家族には資料作製についてご協力をうけた．筆をおくに当り，ここに記録して感謝の意を表する．

文　献

1) 斎藤博英：気温経年変化の一特徴，研究速報 No. 25, p. 16 (1947)
2) 守田康太郎：気候の経年変化，北海道の気候，p.75 (1953)
3) 旭川地方気象台：上川地方の気候，p. 75(1961年版)
4) 木村耕三：季節の階段型変化について，未刊（気象集誌予定）
5) たとえば山岡保：北海道から見た気候変動，天気, Vol. 6, No. 6, p. 1 (1959)
6) 木村耕三・岩戸次郎：移動平均についてのノート，技術時報別冊, No. 6 (1958)
7) 木村耕三：日本の気候変動（第2図），北海道の気象，Vol. 2, No. 1, p. 1 (1958)
8) 荒川秀俊：気候変動論、地人書館, p. 36 (1955)
9) 藤原咲平：凶年と太陽黒点，天文と気象，Vol. 16 No. 2, p. 14 (1950)
10) 唐津進：太陽黒点変化を考えに入れた気候の類似性について，北部気象研究会誌，No. 1, p.30 (1950)
11) 斎藤博英：本道農業に寄与すべき気象上の問題点，昭和31年北海道冷害誌（北海道庁総務部編）余録，p. 585 (1957)

図案者のことば

村岸　博

気象学会の吉武先生から天気の表紙について相談があったのは昨年の四月頃でした．〝天気〟を見せられてこの内容に合ったものをというお話でした．大変な仕事を仰せつけられたと思いました．私は確かに図案家ではありますが，主として器械関係の仕事をしていましたので，こういう科学雑誌の表紙については全く自信がありませんでした．一応考えさせて下さいとお答えして帰えったその日から，私はこのことだけで頭が一ぱいになって，他の仕事は手につきませんでした．いろいろ工夫して見たが，自信のある作品は得られませんでした．2週間以内というお約束の日が矢のような早さで迫って来るのです．夜も眠れない日が続きました．なぜこの仕事にだけ，こんなに緊張したのか今から考えるとおかしいくらいです．10日目の夜でした．私は近所のお風呂屋へ行きました．まだ混んでいない時間でした．品のいいお年寄りがお孫さんらしい男の子をつれて入浴していました．その子供さんが，セルロイドの洗い桶を湯槽に浮べてくるくる廻しながら遊んでいました．これを見た瞬間，私は台風を象徴化した本紙の図案に気がついたのでした．湯槽は海の水のように青く，湯槽の上をくるくる廻りながら動いていく赤い洗い桶は美しい動画でもありました．

それからは次々と案ができました．TENKIという字と日本列島との組合わせの案，天気記号を図案化した案，それに一番最初に思いついた台風を象徴化した案の三つを更に研究変形して，10種類ばかりの案を持って吉武先生を訪れました．お約束の2週間はとっくに過ぎていましたが叱られずに讃められました．

私はどれが天気の表紙に選ばれるかが気がかりでしたが，気象学会理事会で理事のみなさんが，お選び下さった図は，やはり私の一番初めに考えた，私としても一番自信のある動く台風の図案でした．

（吉野計器製作所　図案課長）